

入學式之記

著者	南, ?之助
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 6 8
ページ	1 4 8 - 1 4 9
発行年	1918-12-25
その他の言語のタイトル	入学式の記
URL	http://hdl.handle.net/2298/6866

入學式之記

天高く晴れて氣清き九月十二日午前九時濟美館に入學式舉行せらる。一同着席し終るや校長の式辭あり校設立の由來及三年の生活智徳体三育に對する恒久の希望自發的努力につき循々として高訓を垂れさせ給ふ尊さ。新入生總代答辭終るや光榮と歡喜とに充つる式場に。吾人生命の躍動する所剛毅朴訥の生活表象せられん。桑原總務の新入生歡迎の辭、舊生に堅實なる誘導を望む新入生總代の辭、相互交換あり其辭巧拙の如何を問はず、吾人、新舊和樂を歌はしむる運命の神に感謝の念を心ゆくばかり捧げんとぞ思ふ。例によりて本年度特待生の選定ありこゝに誌してその名譽を表彰す。

一三	一	本	田	弘	人	一三	三	楠	本	正	繼
一三	三	荒	卷	昌	之	一三	三	山	口	真	哉
一三	三	片	山	康	次	一三	三	福	島	鐵	雄
一三	三	西	村	熊	雄	一三	三	平	井	三	次
一三	三	古	賀	逸	策	一三	三	調	來	助	

新入生歡迎之辭

心よりいで、龍田山の南に三年を送らんと訪ひこら

れし新たななつかしき君にさゝぐ。今、あへなく西に吹きよせられし舟人を悼む能はず。唯かゝる舟人を有明の海邊に歌へる波の花もて洗ひきよめんと思ふなり。

何はともあれ。すべての來し君よ。吾が古き衣は破れそめぬ。

その破れ目より汚れし膚のすきて見ゆるあるは實か君よ疾くまもりくれよ。寒き風吹きそめんにはあまりに心細し。

心あらば清き布たづさへ來りて縫ひたまへ。

すべての舊きつづれば白川の流れにそゞ阿蘇の山より有明に吹き下す神風にさらしてつづりくれよ。これかくいふ主のいと切なる願なり。かくいふ主は君の靴の紐をも解くに足らねど唯たやすくよしあしのみぞいふなる。

今聖き四、七の學年を迎へつゝ光榮ある歡喜にみちし三百の君と相遭ふ。この喜び何にかたとへん。あゝ何にかたとへん。この喜びの聲とや。阿蘇の深き溪に流るゝ泉にきけ。眞に偽なし。君とく聽きてよ。となむかくいふは光榮ある君ごちを迎ふる爲のなれ

ぬきざなり。(南清之助)

第二十八回開校記念之記

記念式

武夫原の松の緑は變らねど逝く時もはや我が校の誕生日となりけり、この日朝暾麗らかにして光榮するき龍南に生氣を湛ふ。

十月十日午前十時吾人九百の健兒吾校二十八年の歴史を回顧しつゝ、濟美館なる記念式場に入る。開式宣せらるゝや校長の式辭小松教授の教員總代祝辭、桑原總務委員の生徒總代祝辭、來賓佐柳市長祝辭朗讀あり。つづいて記念の式歌壯重に響き渡れば之より例年の如く記念式歌の朗讀嚴肅に行はれたり南、塩谷、桑野三新体詩、今田漢詩なりとす。之につづいて劍道柔道の演武あり十一時半頃終りを告げぬ。

記念運動會

前日より忙がしかりし裝飾に今日は正門のアーチの

輝く美しさ。日光に光彩淡離たり。漫畫は圖書閱覽室なる龍南新聞社を中心に滑稽なるもの面白く張出されぬ豫定の如く一時より運動競技開始す。龍南新聞は時々發行せられて觀集に興味を與へぬ。十二回競技の終る頃小雨襲ふ時に二時十五分。群集堵を成せるものや、狼狽の氣味ありしも雨歇みぬ。三十三回に至りて小雨再びいたり歡衆崩る競技續行を危ぶしに空晴れて雨露芝生を和げ絶好の運動場と化せり時に五時に切迫し對部競走に遷る。四時四十分頃先づ一部の大太鼓を曳廻す大示威運動あり。鼓上に四人あり一人旗振り一人扇子とりて舞ふに似たり。一部生全体の應援團長に對して禮の終るや『デカンショを心ゆくばかり歌ひますぞ』の鼓上指揮官の命令もて一同高唱進行する様、觀客をして腹を然らしめたり次に二部一周優勝旗返却。籤醫者くたばれ三百代言バノバノバーの大旗立てゝ大太鼓を曳く亦同じ、三部の示威は他に比して見劣りせり。

五時に式終る。こゝに對部競争は一發の銃聲と共に生命の爭奪の如く展開せられぬ第一廻より第三廻までは綠先驅してあはれ勝者の榮を思はしめしに第四